

2008年度第1四半期決算説明会

主な質疑応答

Q1：売上高・営業利益の社内計画に対する進捗はどうか？セグメント別に上振れしたか、下振れしたかをお聞かせ下さい。

A1：売上に関しては、イメージング部門とインフォメーション部門は社内計画をやや下回り、ドキュメント部門は計画通りでした。営業利益に関しては、イメージング部門とインフォメーション部門はほぼ計画を若干上回り、ドキュメント部門は計画をやや下回ったものの、全体では、ほぼ計画通りでした。

Q2：第1四半期でスリム&ストロング活動(以後 S&S 活動)の効果が130億円あったとの説明でしたが、年間ではこの4倍程の効果が見込めるといえることですか？

A2：130億円の内訳は、原価で80億、SG&Aで50億円です。年間で500億円くらいの効果を得られると見込んでいます。引き続き手綱を緩めることなくS&S活動を推進して行きます。

Q3：各セグメントでのS&S費用の発生額を教えてください。また、通期のS&S費用の計画に変更はありませんか？

A3：当四半期はトータルで18億円を計上しており、全てドキュメント部門での発生であり、イメージング、インフォメーション部門では発生していません。また、通期計画に変更はありません。

Q4：最近、LCD関係の部材の製造がスローダウンしてきているようですが、第2四半期以降のTACフィルムの伸び率に変化が生じることはあると考えますか？

A4：偏光板メーカーのTACフィルム使用ロスが減ってきており、その結果、パネルの伸びに対してTACフィルムの伸び率が小さくなる傾向にあります。全体として見れば引き続き堅調です。なお、第1四半期の販売数量は、前年同期比でTACフィルムが12%増、WVフィルムを含む高機能品が19%の伸長となりました。

Q5：ドキュメント部門の利益は好調でしたが、改革をさらに進めていくという方針に変わりはありませんか？

A5：2009年度の営業利益率10%を達成できるように今後もS&S活動を強化して行きます。このタイミングで手綱を緩めることはありません。

以 上